

令和5年度補正GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト事例 (事業実施主体：グローバルぶどう輸出産地協議会、品目：ぶどう)

課題

海外向け生産量の確保

- ✓ 輸出需要の増加に対応するため、輸出向けのぶどう生産量を拡大する必要

集荷作業の効率化

- ✓ 協議会会員の集荷の効率化(積載数の増加)に向けた対応が必要

輸送コストの低減・ 最適な輸送ルート見極め

- ✓ 競争力を強化するため、輸送コストの低減や最適な輸送ルート選定、連携フォワーダーを見つける必要がある

取組

輸出用園地の造成

- ✓ 茨城県の耕作放棄地を活用し、台湾向け防除体系に対応したぶどうの輸出産地づくりを実施

低コスト技術への転換

- ✓ シャインマスカット用の集荷コンテナの導入により効率的な集荷システムを構築
- ✓ 物流業者と協力し、最適なルートでの集荷体制を整備

直接輸出の実施

- ✓ タイ向けに、成田空港及び羽田空港からの直接輸出を実施
- ✓ 自社内にて輸出実務対応可能な体制を整備

成果

供給力の増大

- ✓ 輸出向け園地が1.5haから3.0ha(茨城県)へ拡大
- ✓ 雨よけ付きの露地栽培を実施

積載効率の向上

- ✓ 専用コンテナ導入により一回当たりの積載効率が向上(従来の180房から350房に増加)
- ✓ 専用コンテナの増強により、ぶどうの損傷率が5%から2%に低下

効率的な輸送ルートの強化

- ✓ 羽田空港はリードタイム面、成田空港は輸送コスト面で有利であり、使い分けできる体制が整備された
- ✓ フォワーダーとの植物検疫対応や輸出の仕組みづくりを構築することができた



令和5年度

輸出額 約1億円

輸出量 約47.5トン

令和6年度(実績)

輸出額 約1.1億円

輸出量 約54.5トン